

8-5

センター方式の導入で認知症利用者の生活を変えた

施設におけるセンター方式導入とその対応

共通の視点

個別ケア

特別養護老人ホーム

むこうだいろうじん

向台老人ホーム

介護主任 肥田野直樹

介護士 三浦奈穂子

東大和市芋窪 3 丁目 1638-2

介護士 稲村佳恵

TEL 042-562-6787

E-mail mukoudai@interlink.or.jp

FAX 042-564-1301

URL <http://www.mukoukai.org>

今回の発表の施設
またはサービスの
概要

向台老人ホームは、西武球場・多摩湖に程近い住宅地にある 60 床の特養です。開設から 23 年目を迎え、ご入所の皆様は、年々重度化。中でも認知症の方は全体の 90%以上になりました。何とか落ち着いた生活を提供したくセンター方式を導入。

〈取り組んだ課題〉

1. 認知症利用者の思いを知る。
2. ご家族の思いを知る。
3. 私達のケアの現実を知る。
4. 利用者の思いがかなえられない理由は何か
5. 何を変えたら思いが叶えられるか。
6. 具体的な取り組みの実施。

〈具体的な取り組み〉

1. センター方式を職員全員が理解するため勉強会の実施。（計 4 回実施）
 - ・ センター方式の説明
 - ・ 各シートの説明、対象者の決定 2 名
 - ・ シートの実践活用、視点の確認
 - ・ 対応後のデスカッション
2. 共通な 5 つの視点を持つ。
 - ・ その人らしいあり方
 - ・ その人の安心、心地よさ
 - ・ 暮らしの中で心身の力の発揮
 - ・ その人にとっての安全・健やかさ
 - ・ なじみの暮らしの継続
3. 今までのケアプランとセンター方式を取り入れた後のケアプランとの比較。
4. ルーチンワークの見直し。（利用者との関わりの時間の確保）
5. 家族からの情報収集

〈活動の成果と評価〉

大きな成果は、見出せなかったが職員の視点（センター方式に要する共通理解）が揃ってきた様に思う。

1. ケアプラン立案時の視点の変化
2. 職員の利用者に対する関わりに変化（利用者の行動・言動の一つ一つに意味がある事に気付くようになり、心の中にある思い・願望等を理解・推測するようになった。）
3. 主の思い、家族の思い等を再確認。
4. 認知症利用者に対する職員の意識改革

〈今後の課題〉

今年度は初回なので 2 例に実施。今後は少しずつでも対象者を増やしてきめ細かい対応の出来る施設になっていきたい。

1. 家族へのセンター方式の説明及び理解を深める
2. センター方式と現行のケアプランの連動性の確保
3. 施設全体へのセンター方式の周知徹底

〈参考資料など〉

中央法規 改訂認知症の人の為のケアマネジメントセンター方式の使い方・活かし方